

驚き 微小生物の世界

諏訪市公民館 自然探究講座始まる

小中生親子ら 臨湖実験所で観察



諏訪湖の水1滴の中のプランクトンを観察する親子たち＝信州大諏訪臨湖実験所

諏訪市公民館は25日、諏訪湖の小さな生き物を題材にした今年度初回の「諏訪の自然探究講座」を信州大湖沼高地教育研究センター諏訪臨湖実験所(同市)で開いた。9組の小中学生親子が参加し、湖水1滴の中のプランクトンを

観察。肉眼では見えない微小生物の世界に驚き、諏訪湖の自然環境や生態系への興味を深めた。

信大名誉教授で、同所長を務めたこともある沖野外輝夫さん(同市)を「先生」として招いた。沖野さんは諏訪湖では350種以上の植物が確認され、うち約300種は植物プランクトンと解説。

「湖は小さな宇宙と言われ、目に見えないけれど宇宙をつくっている」と語り、大型の動物プランクトンであれば肉眼でも観察できると教えた。

学生らがプランクトンネット

トを用いて23日に採水した湖水を用意した。親子たちはスポイトを使ってスライドガラスに1滴だけ垂らし、代わる代わる顕微鏡をのぞいた。諏訪清陵高校付属清陵中学校3年の影山玲奈さん(14)は、さっそくラン藻類の2種を発見。「プランクトンが増えたり、減ったりしたらどうなるかも考えていきたい」と話していた。

自然探究講座は12月にかけて6回予定する。次回からは一般も受け入れ、霧ヶ峰の八島ヶ原湿原、車山でも自然観察や学習活動をする。

(鮎沢健吾)